

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.3-2)

件名	燃料横転クレーンにおける燃料押込み中の燃料集合体の引っかかり									
事象の概要	<p>(1) 発生場所: 機器 前処理建屋: 燃料横転クレーン</p> <p>(2) 発生の状況 燃料横転クレーンの運転中</p> <p>(3) 概要 燃料横転クレーンにてせん断機に燃料集合体を押込む際のせん断機挿入口への燃料集合体の引っかかりに伴う燃料押込み荷重大により燃料横転クレーンの停止</p>									
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 前処理建屋換気設備が稼働しているセル内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 燃料押込み荷重大により燃料横転クレーンの運転を停止するため、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 燃料横転クレーンの復旧作業は、セル外からの遠隔作業なので、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 下流の工程の運転に影響が生じる。 燃料横転クレーンの停止により、前処理建屋内の燃料横転クレーン以降の工程の運転に影響が生じる。さらに下流の分離建屋以降の工程は、前処理建屋と分離建屋の中間に設置されている一時的な貯留槽(計量後中間貯槽)の残液量で運転継続の可否を判断する。</p>									
対応の概要	<p>(1) 燃料集合体を引き戻し、再度押込みを行う。</p> <p>(2) 再度押込みによっても燃料押込み荷重大が解消されない場合、定められた保守作業手順に従って、燃料横転クレーンとせん断機挿入口のずれを確認し、燃料横転クレーンの位置を調整する。</p> <p>(3) 燃料横転クレーンの位置調整後、燃料集合体を押込み、燃料押込み荷重大が発生しないことを確認後、定められた操作手順に従い、運転を再開する。</p> <p>(4) 上記対応に長期間を要する場合は、待機中の別系統の燃料供給設備、せん断処理設備、溶解設備に切り替えて運転を再開する場合もある。</p>									
公表区分	毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載)									
対応区分	<p>(a) 運転継続しながら復旧</p> <p>(b) 運転システムを切り替えて復旧</p> <p>(c) 当該機器を停止して復旧</p> <p>(d) 当該設備を停止して復旧</p> <p>(e) 影響範囲の設備を停止</p>	<p>国際評価尺度 (INES)のレベル</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">0以下</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> </table> <p>(レベル2以下は工場外への影響はない) 放射性物質の外部放出 工場外への影響</p> <p>日本原燃による評価: レベル0以下 放射性物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p>運転制限措置からの逸脱等 多重防護の劣化</p>	0以下	1	2	3	4	5	6	7
0以下	1	2	3	4	5	6	7			

